

2014年9月20日（土）「わらしべ長者ゲーム」

一本のわらを様々な物と交換してやがて長者になったという昔話を、物々交換ゲームとしてアレンジした、中央図書館オリジナルのイベントです。府中市国際交流サロンとのコラボ企画として2014年1月に第1回目を開催しましたが、2回目となる今回は参加国・内容ともに更にパワーアップさせました。

「わらしべ長者ゲーム」は多様な国の様々な文化・価値観を“物”を通して知り、交換・交流します。今回は韓国・サモア・スペイン・中国・台湾・フィリピン・ベトナムの7か国の方が参加。好奇心旺盛な子どもたちと自国をたくさん紹介したい外国人の方がコミュニケーションしながら楽しめるイベントです。



最初に皆さんにお渡しする和紙の折り紙から物の交換を始めました。外国人の方は出身国の「物カード」を持っています。ボランティアの方と二人一組で参加者の皆さんが訪れる家となるブースを持ち、子どもたちはこの家々を訪れて交換を試みます。手元にある“物”がどんなに素敵な物か説明して外国人の方の「物カード」と交換してもらおうのです。



カードをくれた時に聞き取ったお話を交えて、手元にある「物カード」がどんなに素晴らしいものなのか一生懸命に説明する子どもたちに、それならばと、外国人の方もすてきな「物カード」をたくさんの面白いお話と共に交換してくれました。





各国の家では図書館の本も資料として用意しました。ガイドブックからエッセイ、写真集やその国の言葉で書かれた絵本など、図書館では様々な外国の文化を知る事ができる本を所蔵しています。興味を持った国についてもっと知りたいと、借りていく子どももいました。



交換の最後に何を手にいれる事ができるのかもゲームの楽しみの一つですが、様々な外国人の方とたくさん話げできたことが、子どもたちには何よりも楽しかったようです。多文化交流のお手伝いとして今後もこのような機会をつくっていきたいと思います。